

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル) 申請様式

① 学校名	京都光華女子大学		
② 大学等の設置者	学校法人光華女子学園	③ 設置形態	私立大学
④ 所在地	京都府京都市右京区西京極葛野町38		
⑤ 申請するプログラム名称	光華EDUALプログラム(リテラシーレベル)		
⑥ プログラムの開設年度	令和3	年度	⑦ 応用基礎レベルの申請の有無
			有
⑧ 教員数	(常勤)	105	人
	(非常勤)	181	人
⑨ プログラムの授業を教えている教員数			26
⑩ 全学部・学科の入学定員	495	人	
⑪ 全学部・学科の学生数(学年別)	総数		1,903
1年次	417	人	2年次
			495
			人
3年次	518	人	4年次
			473
			人
5年次	0	人	6年次
			0
			人
⑫ プログラムの運営責任者			
(責任者名)	土居淳子	(役職名)	キャリア形成学部長
⑬ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)	リベラルアーツセンター		
(責任者名)	朝比奈英夫	(役職名)	リベラルアーツセンター長
⑭ プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)	自己点検評価委員会		
(責任者名)	高見茂	(役職名)	学長
⑮ 申請する認定プログラム	認定教育プログラム		

連絡先

所属部署名	学生サポートセンター 修学担当	担当者名	相原真弓
E-mail	kyomu@mail.koka.ac.jp	電話番号	075-325-5307

プログラムを構成する授業科目について

①具体的な修了要件

②教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

下記のリベラルアーツ教育科目を全て修得すること(必修4単位)。
 ・情報リテラシー応用(90分×15回、1単位)
 ・京都光華の学び(90分×15回、1単位)
 ・アカデミックスキル入門(90分×15回、1単位)
 ・アカデミックライティング(90分×15回、1単位)

下記の3科目は選択とする。履修を推奨するが必修とはしない。
 情報リテラシー基礎(90分×15回、1単位)、くらしのなかの統計学(90分×15回、2単位)、プログラミング入門(90分×15回、2単位)

③現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6
情報リテラシー応用	1	○	全学開講	○	○						
情報リテラシー基礎	1		全学開講	○							
くらしのなかの統計学	2		全学開講	○	○						

④「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3
情報リテラシー応用	1	○	全学開講	○	○						
アカデミックライティング	1	○	全学開講	○							
京都光華の学び	1	○	全学開講		○						
くらしのなかの統計学	2		全学開講	○	○						

⑤「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5
情報リテラシー応用	1	○	全学開講	○	○						
くらしのなかの統計学	2		全学開講	○	○						

⑥「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2	授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2
情報リテラシー応用	1	○	全学開講	○	○						
アカデミックスキル入門	1	○	全学開講		○						
情報リテラシー基礎	1		全学開講		○						
くらしのなかの統計学	2		全学開講	○							

⑦「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3
情報リテラシー応用	1	○	全学開講	○	○	○							
アカデミックスキル入門	1	○	全学開講	○									
アカデミックライティング	1	○	全学開講	○									
京都光華の学び	1	○	全学開講	○									
くらしのなかの統計学	2		全学開講	○	○	○							
情報リテラシー基礎	1		全学開講		○	○							

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
くらしのなかの統計学	4-1統計および数理基礎		
プログラミング入門	4-2アルゴリズム基礎		
プログラミング入門	4-3データ構造とプログラミング基礎		
くらしのなかの統計学	4-4時系列データ解析		
くらしのなかの統計学	4-8データ活用実践(教師あり学習)		

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「情報リテラシー応用」(2回目) ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「情報リテラシー基礎」(1回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス「情報リテラシー応用」(9回目) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「くらしのなかの統計学」(1回目、2回目)
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「情報リテラシー応用」(9回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「くらしのなかの統計学」(6回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ「くらしのなかの統計学」(4回目、12回目) ・調査データ、1次データ、2次データ「情報リテラシー応用」(6回目、11回目) ・人の行動ログデータ「情報リテラシー応用」(10回目) ・データのオープン化(オープンデータ)「アカデミックライティング」(12回目) ・データのオープン化(オープンデータ)「くらしのなかの統計学」(4回目)
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり「情報リテラシー応用」(9回目、10回目) ・仮説検証・知識発見・原因究明・計画策定など「情報リテラシー応用」(11～14回目) ・仮説検証・知識発見・原因究明・計画策定など「くらしのなかの統計学」(6回目、7回目、11回目、12回目) ・判断支援(階層分析法)「京都光華の学び」(14回目)

<p>(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p>	1-4	<ul style="list-style-type: none"> ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ「情報リテラシー応用」(5回目、8回目) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、関係性の可視化、地図上の可視化など「くらしのなかの統計学」(4～6回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「情報リテラシー応用」(10回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「くらしのなかの統計学」(13回目)
	1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの加工、探索的データ解析、推論、結果の共有・伝達)「情報リテラシー応用」(11回目) ・製造、サービス、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「情報リテラシー応用」(10回目) ・金融、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「くらしのなかの統計学」(7、12、14回目)
<p>(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする</p>	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「情報リテラシー基礎」(7回目) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「情報リテラシー応用」(10回目) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「アカデミックスキル入門」(1回目、8回目) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「くらしのなかの統計学」(13回目) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス「情報リテラシー応用」(10回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介「くらしのなかの統計学」(13回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介「情報リテラシー応用」(10回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性「情報リテラシー基礎」(1回目、2回目) ・情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性「情報リテラシー応用」(1回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報リテラシー基礎」(7回目)

<p>(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの</p>	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「情報リテラシー応用」(7回目、11回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「くらしのなかの統計学」(2回目) ・代表値の性質の違い「くらしのなかの統計学」(2回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)「くらしのなかの統計学」(3回目) ・観測データに含まれる誤差の扱い「くらしのなかの統計学」(11回目) ・打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ「くらしのなかの統計学」(6回目) ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)「くらしのなかの統計学」(6回目) ・母集団と標本抽出「くらしのなかの統計学」(10回目) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列「情報リテラシー応用」(6回目、7回目、11回目) ・統計情報の正しい理解「アカデミックスキル入門」(13回目) ・統計情報の正しい理解「アカデミックライティング」(12～14回目) ・統計情報の正しい理解「京都光華の学び」(5～14回目) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「くらしのなかの統計学」(1回目、2回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現(棒グラフ、折線グラフなど)「情報リテラシー応用」(5回目、7回目、12回目、13回目) ・データ表現(棒グラフ、折線グラフなど)「情報リテラシー基礎」(10回目、11回目) ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)「くらしのなかの統計学」(4～6回目、9回目) ・データの図表表現(チャート化)「情報リテラシー応用」(14回目、15回目) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)「くらしのなかの統計学」(12回目) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「くらしのなかの統計学」(2回目) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「くらしのなかの統計学」(8回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの集計(和、平均)、データの並び替え、ランキング「情報リテラシー応用」(3～6回目) ・データの集計(和、平均)、データの並び替え、ランキング「情報リテラシー基礎」(7～9回目) ・表形式のデータ(csv)「くらしのなかの統計学」(4回目)

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<p>Society5.0時代に向けて、日常生活、ビジネス・健康科学・教育等の場でデータやAIを使いこなすための基礎的素養(リテラシー)を修得する。</p> <p>(1) 「データを正しく読む力」や「データを正確に伝える力」を身に付ける</p> <p>(2) データやAIが社会でどのように活用され、新たな価値を生んでいるのかを知る</p> <p>(3) データやAIの利活用には公平性・公正性・プライバシー保護などに課題があることを理解し、利活用に際し人間本位の適切な判断ができるようになる</p>
--

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<p>https://www.koka.ac.jp/introduction/edual.html</p>
--

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和3

年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	入学定員	収容定員	令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度		履修者数合計	履修率
			履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
健康科学部	325	1338	284	270	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	284	21%
キャリア形成学部	90	330	82	72	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	82	25%
こども教育学部	80	320	42	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42	13%
															0	
															0	
															0	
															0	
															0	
															0	
															0	
															0	
															0	
															0	
															0	
															0	
															0	
															0	
															0	
合計	495	1988	408	381	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	408	21%

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

リベラルアーツセンター規程

② 体制の目的

リベラルアーツセンターは、(1)全学のリベラルアーツ教育の推進、および、(2)学習ステーション等との連携による教育活動の推進を目的として、令和元年度に設置された組織である。発足当初より、全学必修科目群(京都光華の学び、アカデミックスキル入門、アカデミックライティング)と連携した情報リテラシー教育の拡充に取り組んできた。令和2年度には数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム(近畿ブロック)に会員校として参画し、本学のリベラルアーツ教育の柱の1つとして数理・データサイエンス・AI教育の実施と改善に取り組んでいる。

③ 具体的な構成員

リベラルアーツセンター長 朝比奈英夫(キャリア形成学部・教授)
 リベラルアーツセンター所員 土居淳子(キャリア形成学部・教授、学部長)
 リベラルアーツセンター所員 臼井義比古(キャリア形成部・准教授)
 リベラルアーツセンター所員 小澤千晶(キャリア形成学部・准教授)
 リベラルアーツセンター所員 内田和寿(こども教育学部・准教授)
 リベラルアーツセンター所員 ストリックランド ザッカリマーカス(こども教育学科・講師)
 リベラルアーツセンター所員 西川潤(健康科学部・講師)

④ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和3年度実績	21%	令和4年度予定	42%	令和5年度予定	67%
令和6年度予定	92%	令和7年度予定	98%	収容定員(名)	1,988

具体的な計画

本プログラムは、全学必修のリベラルアーツ教育科目と、選択科目ではあるが入学者の95%以上が履修する「情報リテラシー応用」で構成している。上記の数字は選択である「情報リテラシー応用」の履修者数をもとに算出したものである。

令和5年度入学生より「情報リテラシー応用」を必修化する予定であるので、令和5年度より新入生全員が本プログラムを履修し、令和8年度以降の履修率は100%となる。

⑤ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラム必修の4科目のうち唯一の選択科目である「情報リテラシー応用」(1年次後期)は、「情報リテラシー基礎」(1年次前期)と合わせて学科毎にクラス指定で開講し、希望者全員が無理なく履修できる。そのため、ほぼ全員が1年次に履修している(令和3年度は入学者の98%)。また、令和5年度より「情報リテラシー応用」を必修とする予定である。

卒業必修である「アカデミックスキル入門」「アカデミックライティング」はクラス指定で、「京都光華の学び」はオンデマンド配信型授業として開講し、1年次に全員が履修している。

本プログラム選択科目である「くらしのなかの統計学」(1・2年次配当)および「プログラミング入門」(2・3年次配当)は、リベラルアーツ科目を優先配置する時間割(木曜日1~5講時)に開講し、全学科の学生が履修できるようにしている。

⑥ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

上述したとおり、本プログラムのコア部分は、リベラルアーツ教育科目の全学必修科目とほぼ全員が履修する選択科目で構成しているため、新入生はほぼ自動的に本プログラムに取り組む仕組みとなっている(選択科目の「情報リテラシー基礎」も含む)。それに加えて、本プログラムの選択科目である「くらしのなかの統計学」「プログラミング入門」は、すべての学科の学生が履修しやすい時間割に配置している。

また、毎年度リベラルアーツセンターが新入生に配布しているガイダンス冊子「新入生の皆さんへ」の中で、数理・データサイエンス・AI教育(リテラシーレベル)のプログラムを提供していることを紹介し、リベラルアーツ科目履修ガイダンスでプログラムに含まれる科目の履修を推奨している。2年生、3年生に対しても、各学科の専門教育ガイダンスで本プログラムの説明と履修推奨を行なっている。

⑦ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

「アカデミックスキル入門」「アカデミックライティング」は1クラス30名程度とし、ほぼ毎回の提出物に対し迅速にフィードバックを行っている。LMSに授業資料、解説動画等をアップし、やむを得ず欠席しても授業内容をフォローできるようにしている。オンデマンド授業として開講した「京都光華の学び」では、着実に学習に取り組むことができるよう、毎回リフレクションシートを提出させ翌週の配信で講評・フィードバックを行っている。

「情報リテラシー入門」「情報リテラシー応用」は大半をオンラインで実施した(オンデマンド型:ビデオ授業+eラーニング教材)。全13クラスの授業時間に担当教員が教室に待機し、対面またはZoomで個別質問に対応した。授業時間外でも随時メールでの質問に対応した。令和4年度は対面授業を予定しているが、1教室に2名の教員を配置し円滑な授業運営と個別学習支援を行う。

なお、2021年度新入生からPC・iPadを必携としている。

⑧ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本プログラム対象科目の履修者は、本学LMSである光華ナビのQ&A機能または大学メールを通じて、担当教員にいつでも質問することができる。また、本プログラムを構成する科目は、本学学習ステーションが行う授業外学修支援のターゲット科目である。学習ステーションでは、複数のサポート教職員が常駐し、学生スタッフによる学習支援も行っている。情報リテラシーおよびデータ分析に関しては、専任教員が学習ステーションで待機する時間を公開し、より専門的な質問に対応している。

また、2021年度はコロナ対応のためオンライン授業が必要となった場合には、オンデマンド+個別フィードバック+Zoom等での個別対応を組み合わせる授業を展開した。とくに「情報リテラシー基礎」「情報リテラシー応用」では、PC実習室を週5コマ(月1~月3、水2・水3)開放し、希望者に対して対面での指導を行なった。

自己点検・評価について

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点 プログラムの履修・修得状況	<p>本プログラムの4つの必修科目はすべて1年次配当科目で、そのうち3科目は卒業必修科目である。この3科目は、リベラルアーツセンターが履修登録漏れを確認し、クラスアドバイザーと連携して履修指導を徹底しているため、入学者のほぼ100%が履修している。また、卒業必修科目でない「情報リテラシー応用」においても、学生が履修しやすい時間割で履修クラスを指定し、各学科で履修を促している。令和3年度入学生の「情報リテラシー応用」の履修率は97.8%、単位取得率は91.1%であった(分母は入学者数)。なお、本プログラムは令和3年度よりスタートしているため、これらは令和3年度入学生についての数値である。</p>
学修成果	<p>「情報リテラシー応用」では毎回の確認テストと授業外課題により学修成果を確認し、必要に応じて次回授業で振り返りを行っている。期末課題として実データ分析結果のプレゼン資料を提出させ、データを扱い説明する力の定着状況を確認している。AIリテラシーについては、95%以上の受講生がGoogle「はじめてのAI」の最終テストを受検し修了している。「京都光華の学び」「アカデミックスキル入門」「アカデミックライティング」においても、毎回のリフレクション・シート提出や課題提出、期末レポートにより学修成果を確認・担当者間で共有し、次年度の授業改善に活用している。また、一部科目でルーブリック評価を導入している。</p>

<p>学生アンケート等を通じた 学生の理解度</p>	<p>毎学期実施している「学生による授業評価」の「設問10:この授業を受けて、興味が広がったり、深まっていますか」「設問11:この授業は、将来役に立ちそうですか」「設問12:この授業に満足していますか」の回答分析によって、授業内容に対する学生の理解度や満足度を把握している。「情報リテラシー応用」は、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した学生の割合は72.2%(設問10)、91.7%(設問11)、82.6%(設問12)だった。他の3科目も概ね良好な結果だった。また、「情報リテラシー応用」では授業内で独自に2度のアンケートを実施し、理解しにくい学修内容や学生の学修行動などの把握に努めている。</p>
<p>学生アンケート等を通じた 後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>本プログラムは、毎年ほぼ全ての1年生が履修する科目群で構成しているため、履修推奨の積極的な取り組みは実施していない。なお、「情報リテラシー応用」でAIリテラシーを学修した後に行ったアンケートでは、ほとんどの学生がAIの利活用状況や留意事項に加えて機械学習の仕組みを学んだことを非常に前向きに捉えていた(AIやディープラーニングに興味を持った学生は受講生全体の77.2%)。</p>
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>現状においても令和3年度入学者の95%以上が履修し、おおよそ90%が1年次に修了している。また、未修了者に対しては、2年次以降での再履修を推奨し、履修しやすい環境を整えている。また、令和5年度から本プログラムの必修科目「情報リテラシー応用」を全学必修とする予定のため、令和5年度から全入学者が1年次に本プログラムを履修し、卒業時点で100%が修了することになる。</p>

学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本プログラムは 令和3年度から開始しており、現時点で修了者は在籍中のため、現時点で評価することは難しい。将来的には、毎年実施している「就職先等調査」、「卒業生調査」において、本プログラムを修了した卒業生の進路先や活躍状況を把握することができる。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>協定を結んでいる病院グループ等の実習受け入れ団体、リベラルアーツ教育科目「産官学連携プロジェクト」やキャリア形成学科専門科目「長期インターンシップ」の連携企業や自治体などに対して、本プログラムの内容及び手法などについて、意見聴取を行うことを検討している。また、インターンシップや実習に参加した学生に対して、実習先で求められたスキルや知識などをアンケート調査し、プログラムの改善に活用する予定である。なお、本プログラムの中核科目「情報リテラシー応用」は、本学のリカレントプログラムに提供している。授業アンケートや受講者インタビューでリカレント生のニーズを把握し、プログラムの改善に活用したい。</p>

<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>「情報リテラシー応用」の期末課題として、京都市観光データを分析しその結果を他者に伝えるスライドを作成させており、学生は工夫しながら集計や可視化に取り組んでいる。また、AIに関するeラーニング教材に取り組み、Googleの修了証を獲得することで、学ぶ楽しさと自己効力感を得ている。情報倫理教育では、大学生向けに作成されたドラマ仕立てのビデオ教材を用い、学生が自らの問題と受け取り、考えられるようにしている。令和4年度からは、AIの利活用とそれに付随する倫理的な課題を「京都光華の学び」「アカデミックライティング」で連携して扱い、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義をより強く伝える予定である。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>PC演習を伴う「情報リテラシー基礎」「情報リテラシー応用」では、40人定員に対して授業を主導するメイン講師と個別対応を行うサブ講師の2名を配置している。またeラーニング教材やリファレンス動画を提供し、学生が各自のペースで能動的に学修に取り組める環境を用意している。「アカデミックスキル入門」「アカデミックライティング」(1クラス30名程度)では、教材を統一した上で、担当者間で受講生の状況を共有しながら授業を展開している。オンデマンド配信型授業の「京都光華の学び」ではリフレクション・シートの提出を毎回課し、翌週の授業で講評することで「リアルタイム性」と「インタラクティブ性」を擬似的に再現している。</p>

② 自己点検・評価体制における意見等を公表しているアドレス

<https://www.koka.ac.jp/wp-content/themes/www/assets/file/introduction/edual/edual-01.pdf>

全学共通 の学び

その光、華の如し。自ら輝き、他者を照らし、
豊かな未来を作り出せる人を目指す

リベラルアーツ教育のてびき

リベラルアーツ教育科目

共通コア科目

全学共通の必修科目で、大学での学びの基本と社会生活での基礎を修得します。ここでは、実践的な授業を通して、自己と社会を見つめ直し主体的に行動する姿勢、レポート作成技法、日本の伝統文化とマナーなどを学びます。

健康とスポーツ

充実した社会生活を持續して営むためには、女性の心身のバランスを保つ知識と技法を身につけることが重要です。理論と実技の両面から自己管理について学ぶことができます。

外国語コミュニケーション

大学での学習と社会生活の基盤となる外国語コミュニケーション能力を習得します。それぞれの言語と文化への理解を深め、実践的なコミュニケーションのための知識とスキルを習得できます。

人文・社会・自然

現代社会を豊かに生きるため、文化から自然科学にわたるさまざまな科目を用意。個人の興味や関心に応じて履修し、幅広い視野を持って現代社会の諸問題に向き合う力を養うことができます。

キャリアデザイン

個人の能力に応じて学習の基礎を固めるとともに、社会人としての実力を育み希望の進路に進めるよう、実践的な科目を用意しています。社会の中でキャリアを積み重ね、輝き続けられる力を養うことができます。

健康とスポーツ

選択科目

- 健康の科学
- 食生活と健康
- 生涯スポーツ入門
- スポーツ実技Ⅰ・Ⅱ



外国語コミュニケーション

必修科目

- 総合英語Ⅰ・Ⅱ

選択科目

- 英会話Ⅰ・Ⅱ
- 英語文献を読むⅠ・Ⅱ
- 医療英語
- 中国語Ⅰ・Ⅱ
- ハングルⅠ・Ⅱ
- 海外での語学研修

人文・社会・自然

選択必修(2単位)

- 哲学と倫理
- 仏教文化
- 文化人類学
- 言語と文学
- 日本文化の理解
- 京都の歴史と文化
- 芸術文化論
- サブカルチャー論
- 現代アジア事情
- 現代欧米事情
- 国際社会の理解
- 国際社会とジェンダー

選択必修(2単位)

- 心理学
- 社会学
- 日本国憲法
- 現代社会と法
- 現代社会と政治
- 暮らしのなかの経済学
- 暮らしのなかの統計学
- 生命の科学
- 生活と物理・化学
- 地域と環境
- 生活と防災
- ボランティア論

キャリアデザイン

選択科目

- 情報リテラシー基礎
- 情報リテラシー応用
- 数的処理の基礎
- 日本語表現の技法
- 読解と思考の技法
- Webデザイン
- プログラミング入門
- 産官学連携プロジェクト
- インターンシップ

共通コア科目(全科目必修)

- 仏教の人間観Ⅰ
- 仏教の人間観Ⅱ
- 京都光華の学び
- アカデミックスキル入門
- アカデミックライティング
- 伝統文化

※カリキュラムの内容については一部変更になる場合があります。

さまざまな授業でアクティブラーニング(AL)を取り入れています。

工夫された授業

思考を活性化させる授業で、
知識や考えを深めていく

- 予習・復習の習慣化
- 調べたことをレポート作成・口頭発表

学習サポート環境

専門アドバイザーによる
学習サポートで自学習を促進

- 学習ステーション
- 各学科コモンズ
- クラスアドバイザー教員

学びの確認

学修成果や学習プロセスを
確認しながら学ぶ

- セルフチェックシート
- ループリック*

※評価基準を表にまとも、
学習到達度を確認するもの

社会で輝くための3つの力を身につける

考えを深め発信する力

意欲的に学びを継続する力

行動結果を自己評価する力

リベラルアーツセンター規程

平成31年4月1日制定

(設置)

第1条 京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部（以下「本学」という）に、リベラルアーツセンター（以下「センター」という）を置く。

(目的)

第2条 センターは、関係部局と連携をはかり、本学におけるリベラルアーツ教育の円滑な運営および推進に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するために、次の事項に関する業務を行う。

- (1) リベラルアーツ教育の運営・推進に関すること
- (2) 学習ステーション等との連携による教育活動の推進に関すること
- (3) その他センターの目的達成に必要と認められること

(権限と責任)

第4条 センターは、前条の事項を実施する上で必要な権限を有し、その実施上必要な責任を負う。

(センター長)

第5条 センターにセンター長を置く。

- 2 センター長は、学長の指示に基づいて、センターの運営にあたる。
- 3 センター長は、本学専任教員の中から学長が候補者を推薦し、大学運営会議の議を経て、理事会で審議のうえ、理事長が任命する。なお、任期については次の各号のとおりとする。
 - (1) センター長の任期は2年とする。ただし再任を妨げない。
 - (2) センター長が途中で欠けるときは、すみやかにこれを補充しなければならない。この場合の任期は前任者の残任期間とする。

(所員)

第6条 センターは、所員として専任の教員および事務職員を置くことができる。

- 2 所員（教員）の人事は、センター長が学長と協議して候補者を推薦し、大学運営会議の議を経て理事長が任命する。
- 3 所員（職員）の人事は、事務局長がセンター長と協議して候補者を推薦し、通常の異動発令により発令する。
- 4 所員は、本規程第3条に定めるセンター所管業務にあたる。
- 5 所員（教員）の任期は2年とする。ただし再任を妨げない。
- 6 所員（職員）は通常の異動発令によるため、任期を設けない。

(リベラルアーツ推進協議会)

第7条 各学科と連携し、本学リベラルアーツ教育を効果的かつ円滑に運営するため、リベラルアーツ推進協議会（以下「推進協議会」という）を置く。

- 2 推進協議会は、前項の目的を達するために、センターと各学科との間で、情報交換を行う。
- 3 推進協議会はセンター長が議長となり運営する。
- 4 推進協議会の構成員は、センター長、所員および各学科から選出された教員とする。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、大学運営会議の議を経て、理事会で審議する。

附則 この規程は、平成31年4月1日から施行する。

自己点検評価委員会規程

平成 28 年 4 月 1 日制定
平成 29 年 3 月 16 日改正
令和 3 年 4 月 1 日改正

(趣旨)

第 1 条 京都光華女子大学学則第 2 条・京都光華女子大学大学院学則第 1 条・京都光華女子大学短期大学部学則第 2 条に基づき、本学における教育研究活動等の状況について自己点検・評価を実施し、教育研究水準の向上を図るため、学長直轄の組織として、自己点検評価委員会（以下「委員会」という）を置く。

(審議事項)

第 2 条 委員会は次の各号について審議する。

- (1) 学長から指示の事項
 - (2) 自己点検評価（授業アンケート、教員評価等）の項目の設定に関する事項
 - (3) 自己点検評価の方式に関する事項
 - (4) 自己点検評価の報告書の作成に関する事項
 - (5) 自己点検評価結果の活用方法に関する事項
 - (6) 外部評価（第三者評価等）に関する具体的事項
 - (7) その他委員会が必要と認めた事項
- 2 外部評価（第三者評価等）に関する具体的事項については、必要に応じて大学部会と短期大学部会を組織して審議することができる。

(構成員)

第 3 条 委員会は次の委員をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 大学の各学部長
- (4) 短期大学部長
- (5) 学園事務局長
- (6) EM・IR 部長
- (7) 学長戦略推進部長
- (8) 学生サポートセンター長

(運営)

第 4 条 委員会の委員長は副学長又は学長指名とする。

- 2 委員長は委員会を招集し、議長として議事運営にあたる。
- 3 委員会は委員の 3 分の 2 以上の出席をもって成立する。

(委員以外の出席)

第 5 条 委員長は必要に応じ委員以外の者を出席させることができる。

(所管部署)

第 6 条 委員会の事務所管部署は学長戦略推進部とする。

(規程の改廃)

第 7 条 この規程の改廃については、委員会の議を経て、学長が決定する。

附則 この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。



EDUAL

Essential Data Utilization and AI Literacy Program

学部の特長に加え、データやAIを日常生活、ビジネス・健康科学・教育等の場で使いこなすための基礎的素養（リテラシー）を併せ持つ、**2つの強み(Dual advantage)**を持った人材の育成を目指し、実践的な教育(Education)を実施している。

advantage
データ活用・AIリテラシー

advantage
各学部で習得する専門知識

履修率目標値

令和4年度	42%
令和5年度	67%
令和6年度	92%
令和7年度	98%

令和4年度から実施
令和5年度申請予定

応用基礎レベル

自らの専門分野の学びや卒業後の就業において、課題解決にデータやAIを活用するための基礎知識とスキルを学ぶ。また、現実の課題に対する基本的な活用法を実践（PBL）を通じて学ぶ。

情報技術の理解

産官学連携プロジェクトd

数的処理の基礎d

情報リテラシー
応用

くらしのなかの
統計学

プログラミング
入門

京都光華の学び

アカデミックスキル入門

アカデミックライティング

情報リテラシー基礎

リテラシーレベル

データから情報を読み取り、分かりやすく伝えるための知識・技法と、AIの得意なこと・苦手なことを学ぶ。また、データやAIの利活用における倫理的問題を知る。



修了要件

必修4科目の修得に加え、
選択科目1科目以上の修得で「ゴールド(★★)」のデジタルバッジと修了証を授与予定



修了要件

リベラルアーツ必修4科目の習得で「シルバー(★)」のデジタルバッジと修了証を授与予定



こども
教育学部

・こども教育学科

健康
科学部



・看護学科
・健康栄養学科
・医療福祉学科
・心理学科

キャリア
形成学部



・キャリア形成学科

改善・進化

京都光華女子大学
リベラルアーツ
センター

自己点検

自己点検評価委員会
(委員長：学長)

□ 必修科目 □ □ □ 選択科目

京都光華データサイエンス教育の展開計画

